



ゴール7

エネルギーをみんなに そしてクリーンに

世界の主な目標

- すべての人が、**価格が安く**て**信頼**できる近代的なエネルギーを使えるようにします。
- 石炭や石油などの**一度しか使えない**エネルギーではなく、**再生可能なエネルギー**の割合を増やします。

日本の状況

- 日本のエネルギーは多くを**化石燃料**に頼っており、**再生可能エネルギー**の比率は世界の**主要国**と比較すると**低い傾向**にあります注1。



名古屋市取り組み例

チェック
だワン!

- 住宅への**太陽光発電設備**の設置を支援して、**再生可能エネルギー**の導入を進めているよ。
- 水素**を使って走る**燃料電池自動車**の普及を進めているよ。

マンガで学ぶSDGs



7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに



どんな目標？

- クリーンなエネルギーを増やす
- 誰もが安く、エネルギーを使うことができる

考えるためのキーワード

- 再生可能エネルギー
- 地球温暖化防止
- エネルギーの地産地消



再生可能エネルギー

Q:世界的にも再生可能エネルギーの導入が増えているらしいね？

A: 太陽光、風力、水力、バイオマス、地熱などで作られた電気や熱のエネルギーを「再生可能エネルギー」といいます。日本では、総発電量に占める再生可能エネルギーの割合は16%に過ぎませんが、再生可能エネルギー発電ができる場所は全国の様々なところにあります。資源の少ない日本においては、再生可能エネルギーは貴重な国産のエネルギーとして今後さらに増やすように取組が進められています。

Q:わたしたちにはどう関係しているの？

A: 日本ではこれまで石油や石炭を火力発電所などで利用してきましたが、温室効果ガスである二酸化炭素(CO₂)を出すため、地球温暖化対策の観点から速やかにCO₂を出さない再生可能エネルギーへの転換が必要です。地球の温暖化が進むと日本でも豪雨や農作物への被害などが発生して、わたしたちの生活に大きな影響を及ぼします。省エネなどエネルギーを上手に使うことで使用量全体を減らしていく努力が必要です。



エネルギーの地産地消

Q:地産地消は食べものだけではないのかな？

A: 「エネルギーの地産地消」とは、地域に必要なエネルギーを地域のエネルギー資源でまかなうことです。例えば、住宅や公共施設の屋根等を利用した太陽光、小さな河川や農業用水などを活用した小規模水力、地域に存在する木材などを使用したバイオマスなどの自然エネルギーを活用した発電は、エネルギーの地産地消に適しています。

Q:わたしたちにはどう関係しているの？

A: 石油や石炭でつくった電気を使うことは、その原料となる海外の国に電気代を払っていることと同じです。もし、このお金が地域のエネルギー資源に払われるとしたら、そのお金は地域に留まることになり、雇用や地域経済にも良い影響があります。さらに、災害や大規模停電などの非常時にまかなえるエネルギーを蓄えておくこともでき、防災の観点からも地域でエネルギーを調達することが重要です。



※バイオマス産業を軸とした環境にやさしく
災害に強いまち・むらづくりを目指す地域



考えよう!
やってみよう!

SDGsアクション

- ☑再生可能エネルギーや地域エネルギーの会社やサービスを探してみよう
- ☑暮らしの中で省エネできるのはどんなところかな



目標7 愛知 ×SDGsアクション あいちCOOL CHOICE

地球温暖化対策のために、県民一人ひとりが普段の生活で、エネルギーの使用や節約に取り組む県民運動です。公共交通の利用や省エネ家電への買い替えなど「賢い選択」にチャレンジしてみましょう。

●ホームページ: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/ondanka/aichicoolchoice.html>

